

まちかどトーク【戸出地区】

これからの自治会のカタチとは ～ひとつの提案～

高岡市 生活環境文化部 地域課 令和8年7月18日

地域活動

通学時の見守り



生活道路の除雪



防犯パトロール



資源回収



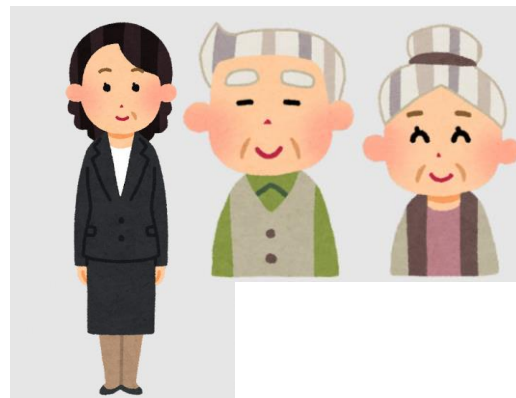
町内の清掃



除草



高齢者の見守り



獅子舞やお神輿



地域活動の目的

目的

地域の暮らしを支えること
「地域」と「行政」が協力

住むエキスパート
暮らすエキスパート

大切なパートナー

誰よりも地域の実情に詳しい！

阪神・淡路大震災の救助主体

図表 1-1-1

阪神・淡路大震災における生き埋めや閉じ込められた際の救助主体等

公助 1.7%

その他
0.9%

自助 35%

共助 60%

出典：(社) 日本火災学会 (1996)「1995年兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」より内閣府作成

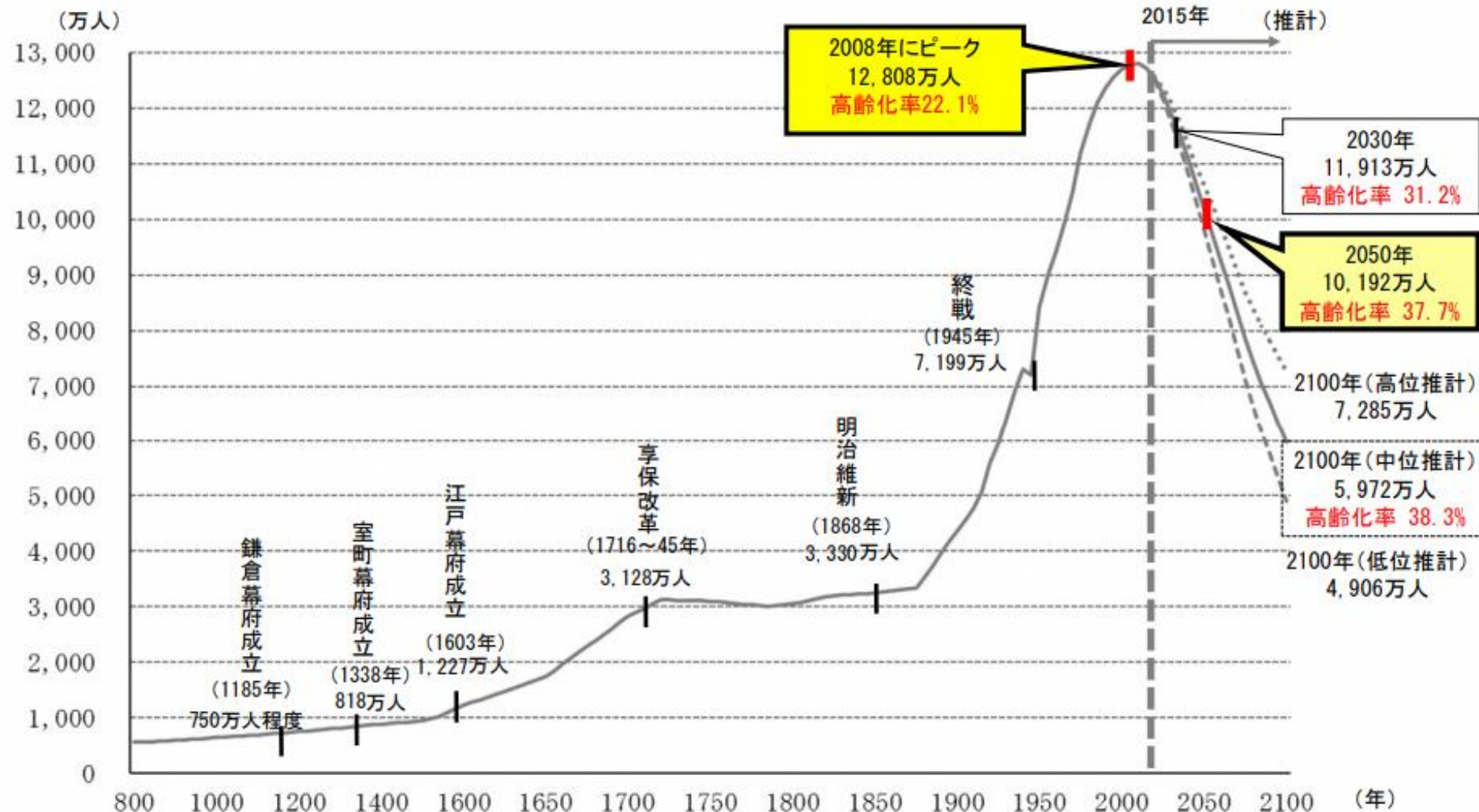
地域、自治会の実情

担い手不足が顕在化
負担感が増している

- 婦人会、老人クラブ、青年団、子ども会の解散
- 自治会の加入率が減少 高岡市77%（10年で10%減少）

自分たちだけで活動できなくなってきた

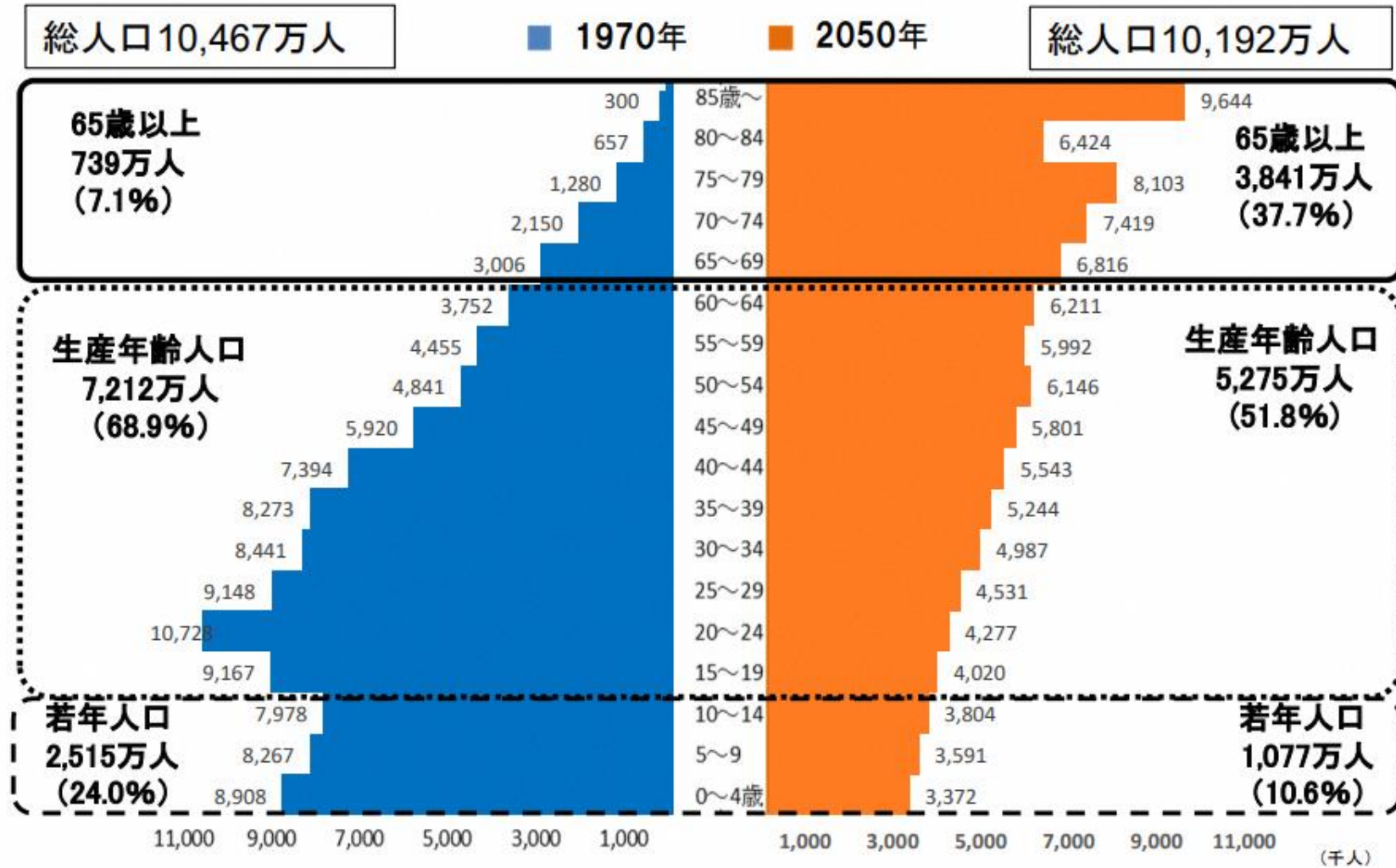
日本の総人口は2050年に2割減少



（出典）1920年までは、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析」（1974年）、1920年からは総務省「国勢調査」。なお、総人口のピーク（2008年）に係る確認には、総務省「人口推計年報」及び「平成17年及び22年国勢調査結果による補間補正人口」を用いた。2020年からは 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」を基に作成。

国土交通省作成資料

約1億人の国土でも、年齢構成が大きく変化



出典) 1970年は総務省「国勢調査」

2050年は国立社会保障・人口問題研究所「将来人口推計(平成29年1月推計)」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果 国土交通省作成資料

75歳以上の3割、85歳以上の6割が要介護

加齢

地域を支える人

支えられる人



65～74歳

元気でアクティブ



75～84歳

なかには介護が必要
な人も



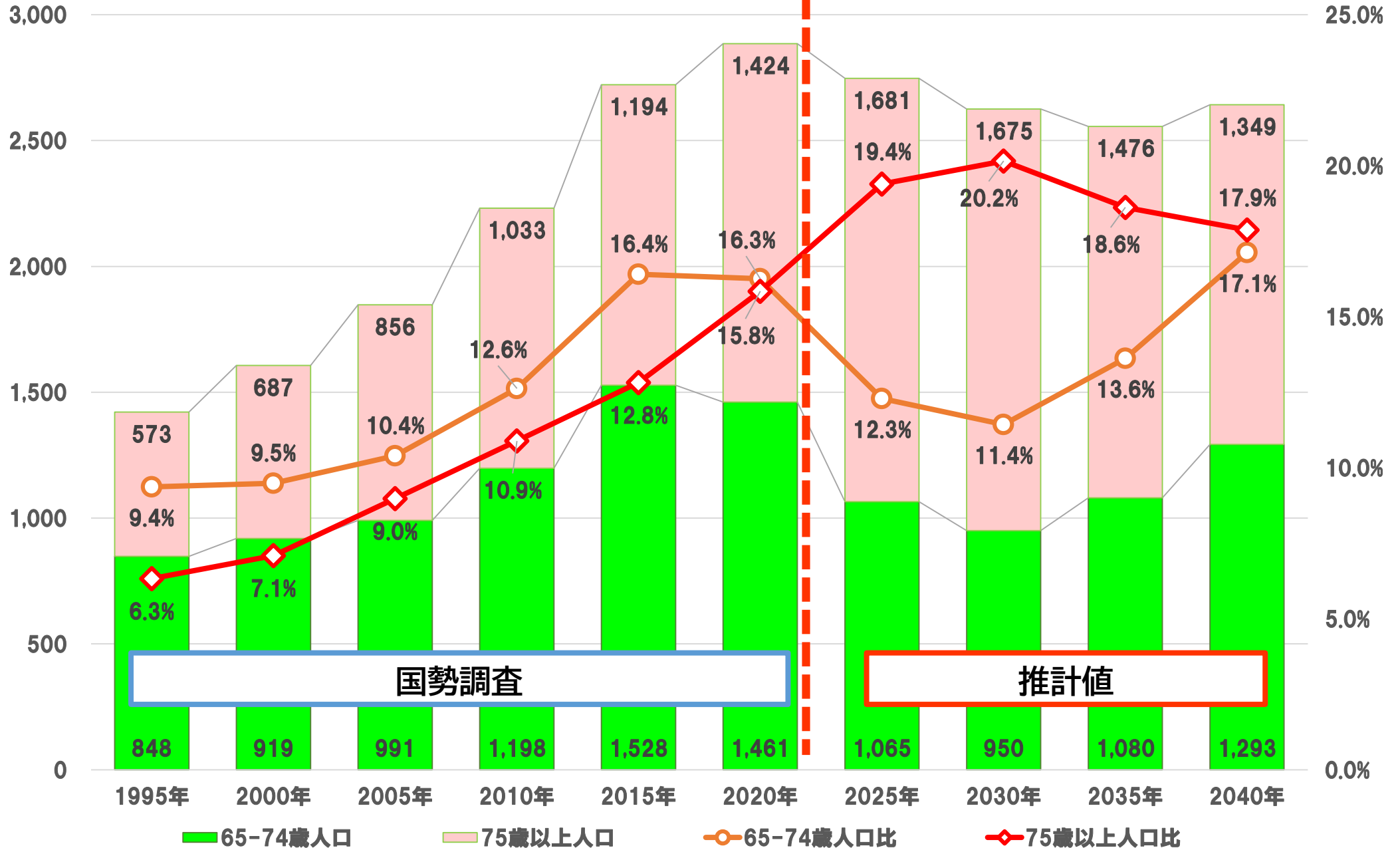
85歳

5人に3人は要介護

戸出

支える世代>支えられる世代

支える世代<支えられる世代

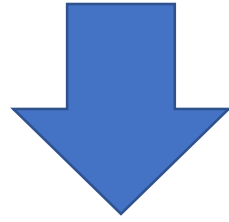


**地域を支える側の前期高齢者が減少
核家族化、定年延長**

でも・・・

組織や行事は従来のまま

「今まで」と「これから」は違う



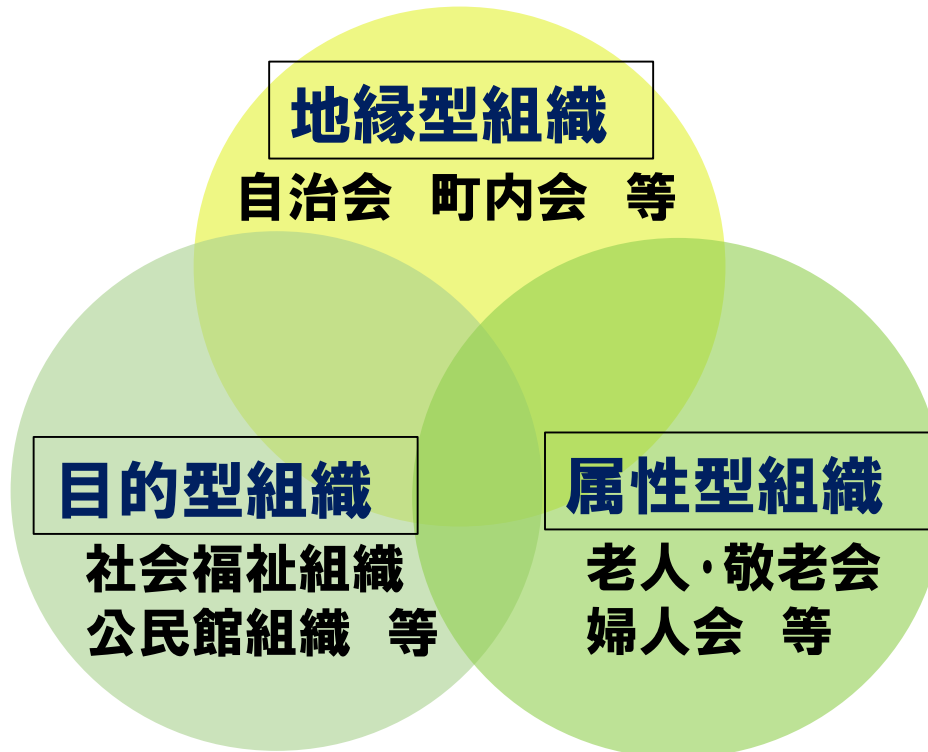
①地域活動の効率化

まとめてできることは、まとめてやる
ついでにできることは、ついでにやる

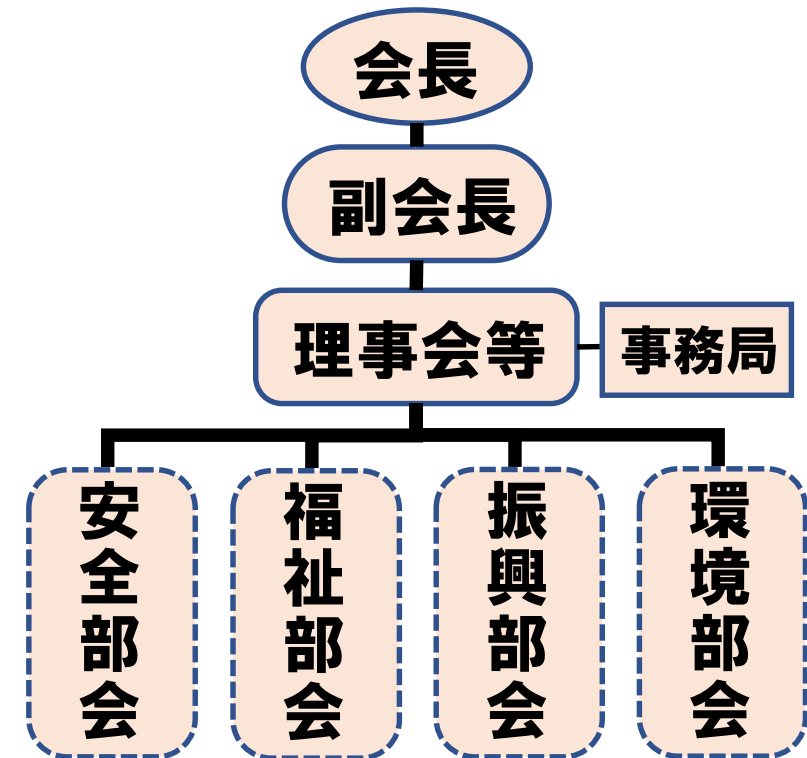
②参画者の拡大

多機能地域自治

これまで



多機能地域自治組織
(地域づくり協議会)



単独で活動せずに、補完しながら活動する

事業やイベントの見直し/整理(重ね合わせ)

主体	開催月								
	4月	5月	6月	7月					
自治会	総会	草刈り	資源回収		防災運動会				
自主防災	総会				研修				
防犯組合	総会							見回り	
交通安全	合同開催 総会			合同開催 収益は按分		合同開催		見回り	
消防団		総会				研修		見回り	
PTA	総会			資源回収				合同実施	
児童クラブ	総会			資源回収					

担架運び、放水的当てを種目に加える
炊出し訓練の代わりに芋煮会

合同開催
収益は按分

合同開催

合同実施

地域運営の見直しで重要なこと

活動の目的や意味を共有する

高齢者や今の担い手から
若い世代に伝える

地域の将来や課題を話し合う

ポイントは女性や若者、
子育て世代の参画

今の時代にあったやり方に変える

住民の声を捉えて、
活動に反映

できるところから見直し

やってみる
試してみる
ダメならやり直してみる

現状維持

＝

次世代への負担増

現状のやり方・仕組みを変えないことは
次世代の負担を増やし続けることと同じ

今、もとめられている地域づくり

人口減少 ▶ 担い手が減ることは不可避

単純に新しい活動等を増やす ではなく

活動や事業の見直し・再編

地域運営を見直して
持続可能な地域コミュニティの実現を！